

氏 名	大中 一彌 (教授)
こんな研究 をしています	【学問分野】政治学、政治思想 【地域】フランス語圏 【キーワード】ヨーロッパ、文化史、社会科学、認識論 【関心】言語や文化のはざまにいる人たちや、そこから生み出されるものに関心があります。
こんな成果 を挙げています	・「マージナル・マン論再考」『異文化』23号、2022年。 ・「黄色いベスト運動 — あるいは21世紀における多数派の民衆と政治」『対抗言論』法政大学出版局、2019年、254-289頁。 ・杉田孝夫・中村孝文編『市民社会』第八章 現代フランスの「スカーフ問題」における市民社会と国家 199-222頁 おうふう 2016年。 ・「移民社会の論じ方 — ジェラルール・ノワリエルにおける記憶と歴史 —」『思想』 岩波書店 1096, 171-187頁 2015年。 ・『フランスという坩堝』 ジェラルール・ノワリエル 法政大学出版局 2015年（翻訳）
ほかに、こんなジャンル に関心をもっています	・フランス17世紀におけるいわゆる「古典主義」と、20世紀における「現代思想」のつながり
こんな授業 を行なっています	国際文化研究科「多言語社会論A」と「多言語社会論B」を担当しています。 2023年度は、《青》という色を軸に据えつつ、ヨーロッパ地域の多様な文化や、その背景について学んでいきます。青い髪 #bluehair から話をはじめの予定です。 授業のテーマを紹介するショート動画（それぞれ約6秒） 多言語社会論A https://youtube.com/shorts/8jK2B1pRnI0 多言語社会論B https://youtube.com/shorts/Gzf8Ht3CVNo ・上記の授業内容にかんし、手軽に読める入門書として、 ガイ・ドイッチャー『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』椋田直子訳、ハヤカワ文庫、2022年、があります。 ・問い合わせや各種相談は、次のGoogleフォームからお願いします： https://forms.gle/RtmecXvRUdyQyQnc6
学会や社会 でこんな活動 をしています	・法政大学出版局の理事長を現在つとめ、学術出版の困難さと意義を感じています。 ・2015年にパリ日本文化会館の招聘で客員教授を務めました。コロナ禍をへて、得難い体験だったとあらためて感じています。
私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチュラル な人物	ボアソナード博士： 青年時代、ヨーロッパにおける1848年の一連の革命の世代の影響を受け、「ユートピアン」的な精神や、「人道的」信条を抱くに至ったとされる。のちに欧化政策の下にあったとはいえ、およそ歴史的文脈が異なる日本で、法典編纂（へんさん）の事業や外交顧問の役割に取り組んだ。成果を挙げたが、挫折も経験している。